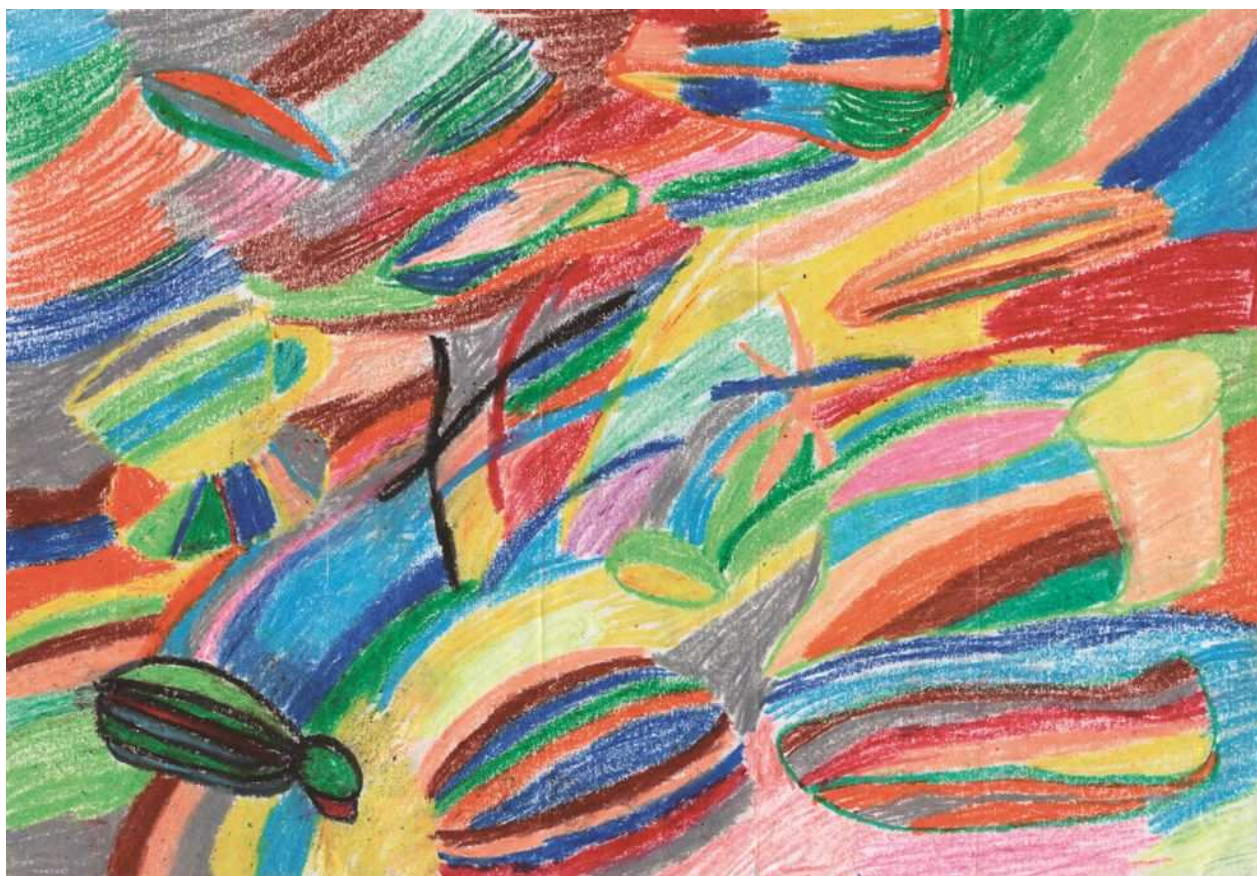




ゆたか福祉会キャラクター  
ゆたかめくとみらいちゃん

# 障害者の ゆたかな未来をめざして



「外国」ゆたか生活支援事業所みどり 森井 照子さん  
※紹介が11ページにあります。

## CONTENTS

- ▶ 4.6 職員集会 ..... P2～3
- ▶ 2024 年度正規採用職員紹介 ..... P4～5

2024年5月10日 毎月1回10日発行 一部200円 (法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3  
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・  
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

# 4.6

職員集会在名古屋国際会議場

## 「学び合い」と「語り合い」を大事に!

### はじめに

新年度を迎えて行われた今回の職員集会は、理事長をはじめとした挨拶後、久しぶりに講師をお招きしての講演が行われました。午後は辞令交付式と2024事業計画及び第7期総合計画の策定に向けての報告、今回で2度目となるグループ討議を行いました。以下、内容を報告します。

### 午前企画

#### 講演



張 貞京先生

「高齢期を生きる障害のある人  
〜人とつむぎ、織りなす日々のなかで〜」

講師 張 貞京先生  
京都市文教短期大学 教授

先生のお話で印象的だったのは「支援が出来るようにする。出来ないことをサポートするだけになっているかも知れない」「その人の人生を豊かにしていく視点から考えた」（生涯発達の時期に適した自己実現）という言葉です。



挨拶される理事長と自治会連合会 石橋会長  
保護者連合会会長代行 矢満田さん



高齢化、重度化というと、どうしても「身体的な加齢による機能低下にどう対応するか」に対応が集約されてしまいがちです。しかしそうではなく、「その時々で、仲間たちの人生をどう自分らしく豊かにしていくのか」という視点で考える事が大事という事です。

また「**それまでの暮らしやコト、仲間関係が高齢期を彩る**」と話されました。高齢期の課題は、決して高齢期だけの課題ではないということ

と。これまでの生活や暮らし方の延長線にあるとライフステージに渡って捉える事の重要性についてお話いただきました。今回のお話を通して改めて、自分たちの実践の在り方を見つめなおす機会となりました。

今治 信一郎

### 午後企画

#### 辞令交付式&登壇者スピーチ

2019年度以来、登壇者が5年ぶりにマスクを着用しない形での辞令交付式となりました。登壇された8名の皆さんには、理事長から一人ずつ辞令が手渡され、その後、スピーチを行って頂きました。内容は「初任研修」のレポートも活用しながら、「ゆたかで働く思い」や「今後の抱負」についてでした。

不安や緊張もあつたと思います。不安を感じさせないほど、各自が自身の言葉で「自分らしく」立派に決意を表明されていました。また「働くうえで大事だと思うキーワード」では、「向上心」「人との関わり」「個性」「妥協しない」「楽しむ」「寄り添う」「感謝」など、多様な思いが紹介されました。

早勢 滋

#### 第7期総合計画の策定にむけて

ゆたか福祉会では5年ごとに経営計画を立て、事業の推進にあたっています。今年第6期総合計画の最終年度にあたり、これまでの成果を振り返りながら、次の「第7期総合計画」を1年かけて練り上げていくこととなります。今回は、計画策定の基本的な視点や重点課題を報告し、策定までのスケジュールを説明しました。

社会はめまぐるしく変化し、将来を見通すことがとても難しくなっています。経営面では収支状況や人材問題など、適切に対処していかなければならない現実的な課題がいくつもあります。事業面ではそのあり方を見直したり、再編するなどして質の向上に取り組むことが重要です。また内側の課題に対応するだけでなく、地域に目を向け、社会福祉法人としての役割や、ゆたか福祉会への期待に応えていくことも大切なことです。

関係者がこの計画の検討に前向きに参加し、計画づくりの過程それ自体が財産となるように推進していきたいと考えています。さまざまな意見を取り入れて、計画がよりゆたかなものになるように取り組みをすすめていきます。

総合計画検討事務局  
山崎 利浩



## 2024年度 正規採用職員紹介

ゆたか作業所

白井 結菜

☺旅行、食べ歩き



以前は、特別養護老人ホームの厨房で働いていました。その経験を活かし、更に「自分が成長できる場はないか」と探していた所、ゆたか福祉会に出会いました。

2日間の体験実習を通して、職員さんのよい関係性や皆さん温かさに魅力を感じました。経験したことのない献立作成やクックチルなど、新しい事にも沢山挑戦していきたいです。

また、常に向上心を持ち、やりがいを感じながら楽しく仕事をしたいです。早く一人前になれるように、精一杯頑張ります。

今年度は女性7名、男性1名の計8名の皆さんが、正規採用職員として入職しました。

2月末にはオリエンテーションを開催し、3月には3日間の初任研修を受講して頂きました。(詳しくはP6～P7参照)最初は緊張していた皆さんも、回を重ねるごとに笑顔がこぼれ、雰囲気の良い和やかな集団で学び合うことができました。

配属された事業所には、新しい風が吹き渡ると思っています。一人ひとりが「初心」を忘れず、輝くことのできる職場を皆さんで創り上げましょう！

☺趣味・好きなことをお聞きました

つゆはし作業所

加藤 沙彩

☺絵を描くこと、ゲーム、寝ること



福祉業界が集まる説明会でゆたか福祉会を知りました。「利用者さんと一緒に働く職場がいい」という自分の思いと合致する部分があったこと、「利用者」ではなく一緒に働く「仲間」として接しているところに強く惹かれ、入職させていただきました。

ただ職員として義務的に支援するのではなく、その人らしく生活していくにはどう支援すればいいか、仲間の将来性や社会性も考えて、仲間主体で動けるように、陰ながらサポートしていきたいです！

ゆたか希望の家

畔柳 ほのか

☺歌うこと、食べること、お花を見ること



大学では、保育や特別支援教育について勉強していました。施設での就職を目指してインターンシップに参加し、仲間の働く思いや仲間同士の繋がりが素敵だと感じ、「入職したい」と思いました。

人との関わりを大切に、その人らしさを尊重していきたいと思えます。仲間が思っていることや感じていることを汲み取ることができるよう、仲間のことをよく知ろうと思えます。

安心できる関係や気持ちを共有できる関係を築きたいです。

ゆたか生活支援事業所なかがわ

仮屋 空澄

☺ゲーム、寝ること、カラオケ



私は福祉ミーツでゆたか福祉会を知りました。インターンを通して、福利厚生や研修制度の充実さといったものだけではなく、職員の方による仲間への支援の温かさを感じました。

仲間が少しでも過ごしやすいように様々な創意工夫をされていたり、仲間を対等な存在として支援している様子を見て、私もそのような支援者になりたいと感じました。

仲間との協働による関係作りに努め、助けると共に助けられながら楽しく働き続けたいと思っています。

ゆたか生活支援事業所みなみ

和田 好太

☺体を鍛えること



常勤パートとして2021年8月から、ゆたか福祉会の「ゆたか生活支援事業所みなみ」で働き始めました。そこから2年半と少し働き、今回エリア正規職員として働くことになりました。

正規職員となり、初めて担当のホームを持ちました。常勤パートの時と比べ、かなり任されることも多く、早くも不安な気持ちでいっぱいですが、責任感を持って頑張っていきたいと思えます。

至らないこともあるかと思いますが、よろしく願います。



おめでとうございます！  
これからよろしくお祈いします！



ライフサポートゆたか

野田 裕美

☺ 遊びに行く計画やイベントを計画する事、飲み会



ゆたか福祉会に入社したのは、家族の介護経験がきっかけでした。移動支援を中心としてお仕事をさせて頂いています。

色々な人と出会い、お話しするのが楽しい毎日です。私はなかまの声を聞き、行きたい所ややりたい事を一緒に考え、叶えるお手伝いがしたいと思っています。なかまが気軽に色々な事を話してくれるようなヘルパーになりたいです。

なかまが笑顔で過ごせる時間、安心出来る場所を作るため、職場の皆さんと協力して頑張っていきたいです！

地域生活支援拠点事業所まーぶる

太田 実里

☺ 旅行、食べること



大学3年生の時、就職活動でゆたか福祉会と出会いました。その際、職員さんと仲間の皆さんの雰囲気の良いさにとても魅力を感じました。ここから「私もゆたか福祉会の仲間の一人として、皆さんと一緒に働きたい」と感じ入社を決めました。

不安なこともあります。仲間の皆さんが笑顔で安心して過ごせるような、より良い支援を目指して頑張りたいです。

また、皆さんとの関わりを通して学びを深め、私自身も成長できるよう励んでいきたいです。

## 所長代行

ワークセンターフレンズ星崎

鈴木 拓也



2013年の就労移行支援の立ち上げからフレンズ星崎に配属され、気が付けば11年。古参とはいえ、所長代行という大役を受けて不安でいっぱいです。

フレンズ星崎のこれまでの歩みを大切にしながら、事業を進めていきます。また若輩者で色々と至らないところがありますが、皆様のご支援を頂き、日々学び、成長していきたいと思ひます。そして仲間のみなさんが『安心』かつ『楽しみ』ながら通える事業所作りを目指していきたいと思ひます。

ケアサポート宝南

柳生 典子

☺ 山菜採り、温泉巡り、徳山がらへ行く



ゆたか福祉会に入職したきっかけは、岡山ケアマネジャーとの出会いが始まりでした。岡山さんの人柄や仕事に対する姿勢に惹かれました。

在宅支援にて「利用者様の思いに何をどうしたら応えられるのか」を多職種の連携や社会資源の活用、自身の知識の幅を広げ、利用者様に寄り添える支援者になりたいと思ひます。

自分の思いを優先するのではなく、常に利用者様に歩幅を合わせて、人生を共に歩み苦楽を共にした支援者でありたいと思ひます。

## 副所長

ゆたか希望の家

阿部 寛



ゆたか福祉会に入職して早7年目に突入しました。

今回、管理職になることで施設の見え方であったり、家族とのコミュニケーション、法人間との連携も不可欠になってくると思ひます。職場内では管理職として支援の質の向上、やりがいのある職場づくり、お互いを認め合う事が出来るような環境を作り、行動できるようになればと思ひます。

まずは自分の決められた仕事をしっかりして、仲間やその家族に信頼されるような管理職になっていきます。

ゆたか生活支援事業所なかがわ

土方 隆治



ゆたか福祉会に入職して7年。みのり共同作業所、ゆたか生活支援事業所なかがわと働かせていただき、多くの勉強をさせていただきました。

今年度、副所長になり、今までの偉大な先輩たちに追いつけるか解りませんが、現場の職員、仲間、ご家族に助けをいただきながら、少しでも追いつけるように努力していきます。

まずは、新しい仕事を覚え、管理職に見合った働きができるように精進していきたいと思ひます。

# 2024年度初任研修

## 紹介



ちのめぎすもの「大切にするもの」についてのお話でしたが、「分かりやすかった」という感想が聞かれました。

4年前から事前レポートでは、理念の「大切にするもの」から一言葉を選び、その選んだ理由を書いて頂きます。報告を聴き、改めて自分のワードと照らし合わせながら、理念の意味づけを再学習されたようにみえました。

午後は「障害を持つ方との関わりの中で大切にしたいこと」「障害理解〜主に発達障害、知的障害を中心に〜」をテーマに、研修スタッフでもある「ライフサポートゆたか」の早勢副所長から報告がありました。研修の中では「障害がいかに環境因子によって発生するか」ということを体験の中で知ることができました。

後半では「ケアサポート宝南」の岡山所長を講師に、介護援助技術を学びました。「移動介護の基本」「衣服着脱介護」「排泄介護」「食事の介護」の説明を、実践をもとに学び深めました。

### はじめに

入職前研修は2月末に開催する「オリエンテーション」からスタートします。ここでは「就業規則の説明と入職手続き」「先輩職員との交流会」「配属事業所管理職との懇談」を行います。3月の「初任研修」では、顔を会わせるごとに笑顔と、賑やかな声が溢れます。居心地の良い雰囲気の中、年代を超えて学び合った皆さんです。



研修風景

### 1日目

#### 「歴史・仲間・家族・働く職員から“ゆたか”を知る」

1日目は、事前レポートでまとめて頂いた「ゆたか福祉会との出会い」「正規採用職員として働く思い」「働くうえで大事だと思うキーワード」についての交流からスタートしました。その後、鈴木理事長からの挨拶や、「歴史」についてのお話、Eテレの映像視聴等、「分かりやすかった」と好評でした。

昼食は同建物の1階にある「ぎゅちんYutaka」の給食を食べました。クックチル製法の食事ですが「美味しい」との声が多く挙がっていました。午後からは「仲間と語ろう」と題して、ゆたか作業所で40年以上働き、ほしぎきホームで暮らしている仲間から、現在の「仕事」や「暮らし」について

「思い」や「願い」をお聞きしました。日頃、支援をしている作業所の職員も同席し、様子を話したり、質疑応答で交流をしながら、新入職員にメールも送って頂きました。

1日目の締めくくりは、ふれあい共同作業所親の会会長で、理事でもある親の方からのお話でした。テーマは「ゆたか福祉会と出会って、そして現在（イマ）思う親の願い」。一日を通して「ゆたか」と「携わる人」から直接お話を聴き、貴重な学ぶ機会となりました。

### 2日目

2日目はまず後藤副理事長から、「ゆたか福祉会の歴史と経営理念」というテーマで報告がありました。ゆたか福祉会の成り立ちや、これまでの事業展開、理念の「私た

また嚙下のしくみを学びながら、とろみ付きのジュースの試飲やペースト食の試食を行いました。そのほか、麻痺があるときの上衣の着脱方法や、車いす点検と操作方法などを学ぶ盛り沢山の内容でした。技術の学びとともに、利用者の皆さんに「何の目的で介護をするのかの説明と同意を得ること」、「選択肢を提供し、選んでもらうこと」などを体験しました。

**3日目**

3日目前半は、「疑似体験を通じて障害理解を深めよう！」でした。言葉が伝わらない状況や、手の不自由さを体験し、①障害の特徴を理解、②障害によって起こる困難な状況を体験、③困難に遭遇した障害のある人を想像する等、障害がある人の戸惑う気持ちやもどかしさを体験しました。「できないことで、もどかしさやストレスを感じた」「支援者はそれらを軽減するために、視覚的な伝達方法やコミュニケーションの工夫が大切」と、「障害の特性を理解し、相手がわかる

伝え方が不可欠」ということを学びました。

後半は、作業体験。リサイクル港作業所は行政の委託を受け、市民の皆さんが出された空きビン・空きカンの再資源化の為に選別を行います。所長からの作業所説明と、作業説明は昨年度の新入職員が担い、作業は仕事のスペシャリストで選ばれた利用者が対応。

ベルトコンベアから流れるごみが資源かどうかと苦戦している様子に、優しく丁寧に教える姿がこちらで見られました。利用者交流では、「仕事が好き」「みんなと働くのが楽しい」「環境を大切にしたい」と口々に話すなかまたち。働く喜びに溢れ、「地球を守る環境問題に繋がる」と「責任と誇り」を持つ姿がありました。与えられた作業ではなく「やりたい作業に挑戦する、常に向上心を持って働く姿」に、「見習いたい」「仕事の先輩として頼りになる」と感銘を受け、沢山のエネルギーをもらいました。

**おわりに**

**スタートラインに立つ準備は整いました！**

初任研修を受講されたみなさんの、これまでの道程は千差万別です。それぞれの経験により培ってきたチカラや思い、そこからゆたか福祉会にたどり着いた瞬間をレポートにしていただきました。これからの長い仕事人生において、悩み・迷う場面で立ち返る「初心」を確認できたのではないのでしょうか。

今回の3日間の研修は、これまで取り組んできた研修内容をもとにしつつも、実際のニーズ（受講した職員の意見）をもとに企画を考えました。

近年、社会福祉分野以外からの入職者が増えており、「障害のある人とのかわり」や支援・業務方法の獲得に不安を示す声も少なくありません。そのため、支援技術や「障害」とはなにかを考える場を研修に盛り込みました。当事者・家族の話を直接聴く機会に加えて、「仲間と一緒に働く」を盛り込み、仲間との

距離を自然に縮める体験を企画したことも今年度の特徴です。

研修後のみなさんの感想から、今後、社会福祉従事者として活動するうえで、社会情勢を意識し、仲間・家族・職員と言葉や思いを交わすことで、4月から「働く自分をイメージできたこと、意欲につながったことがうかがえました。」

研修部スタッフ

早勢 岡山 木村 丸山(京)

**2024 正規採用職員「初任研修」プログラム**

	午前	午後
1日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「ゆたか福祉会との出会いと働く思い」の報告と交流</li> <li>●理事長挨拶</li> <li>●映像でみるゆたか福祉会の事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仲間と語る</li> <li>●障害のある子を抱えての子育てと作業所づくり運動</li> </ul>
2日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゆたか福祉会の歴史と経営理念</li> <li>●日々の支援の基本について</li> <li>●障害を持つ方のかかわりの中で大切にしたいこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●障害理解 I</li> <li>●介護援助技術を学ぶ</li> </ul>
3日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>●障害理解 II</li> <li>●障害疑似体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リサイクル港作業所「作業体験」</li> </ul>

2024  
1.1

# 能登半島地震

No.2

## この「声」を届けよう！

### カフェゆたかめ

「他人事ではない！ 支援の輪を広げていきます」

能登半島地震の発災から5ヶ月が過ぎようとしています。しかし現地の様子を見ると、日常生活を取り戻すにはまだまだ程遠い日々が続いています。

ケアサポート宝南では「他人事ではない！」と感じ、毎月第3日曜日に開催している「カフェゆたかめ（認知症カフェ）」で、1月か

ら3月の期間、募金箱の設置やチャリティーバザーに取り組みました。バザーでは「グループホーム宝南の家」の利用者さんが買い物を楽しんでくださったり、ご近所から来て下さる常連さんもいらっしやいました。皆さん積極的に募金して下さいました。

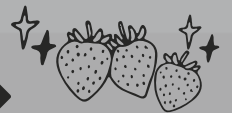
この間集まった募金6,205円と、バザーの売り上げ6,485円を被災地に送金する予定です。地道ではありますが、支援の取り組みを続けていきたいと思えます。

デイサービス宝南所長 阿部直美



## 暮らしの中に彩りを

◆事業所かさでら◆



### いちご狩りに行ってきました！

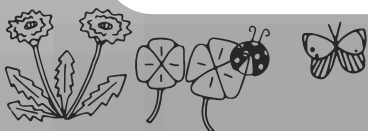
3月10日、とても春らしい晴天の中、事業所かさでらの2ホーム（仲間9名と職員4名）合同で、常滑方面へいちご狩りに行ってきました。出発前には、早く行きたくてソワソワされる仲間や、「いちごいっぱい食べる～」「（いちごは）あるだけ全部食べていいのかなあ」など、それぞれが心から楽しみにされている様子がありました。

車2台でいよいよ出発!! 最初に昼食会場である食堂を目指しました。事前に「何が食べたいか」メニュー表を見て注文済みのため、「お刺身は赤いのあるかなあ」「天ぶら大きいかな？」など大盛り上がりでした。到着後すぐにお料理の提供が始まると、とても豪華な定食に職員も含めて目はキラキラ! 店員さんの丁寧なサービスもあり、500点満点の昼食となりました。

昼食後はいよいよいちご狩り会場へ。集合写真を撮りお皿に練乳を注いだら、いざスタート!! 大きくて甘いいちごが食べ放題! 仲間の素早い動きに職員はビックリ! 5分もするとお皿はいちごのヘタでいっぱいになりました。「あ～美味しかった!」「もうお腹いっぱい」と、仲間全員がいちご狩りに満足するまでの時間はなんと15分! とてもスピーディーないちご狩りでしたが、いちごのヘタの数に満足度がしっかり現れていました。

帰りの車中では「どれだけ食べたか」を報告しあったり、「楽しかったあ」などの感想が続々出され、お腹も心も大満足ないちご狩りとなりました。

片桐 由麻







# 名古屋女子大学看護学科1年生 地域ふれあい実習



## みらいろ

(2月27日～2月29日)

### 医療と福祉がつながる初めの一步

「様々な“初めて”の体験を」と、今回は3つの班活動を各1日ずつ体験して頂きました。送迎車両のリフト操作や、一緒に作業をしたり、足浴の取り組みにも参加。足浴では温度が調度良いかコミュニケーションをとるなかで、仲間たちとの距離がグッと近づいたように感じました。

最終日には協力医療機関の看護師による出張学習会がありました。「学習会がどのように行われているか」を学んで頂いたり、聴診器やパルスオキシメーターを体験する時間がありました。慣れない仲間たちに、ごく自然に使い方を教えようとする姿もみられました。

実習の振り返りで、「障害者を理解していきたい」と話されるなど、福祉と医療の輪が広がったことを実感する瞬間でした。

所長 山崎 真由美



## 先生からのメッセージ

看護職の活動の場は医療機関に限らず地域に広がり、本学では「地域ふれあい実習」を1年次に行っています。看護の対象が地域で暮らす全ての人々であることから、この実習では対象者を支援する場で、地域で生活する人々との交流を通し対象を理解し、看護職の役割を考えることを目指しています。

実習初日には仲間のお母様から将来の不安について伺い、支援を受けながら地域で生活する人々の理解をご家族の視点からも深めました。

仲間がそれぞれの役割を持ち、強みを活かした作業に学生と一緒に参加させて頂くことで、最初は戸惑いながらも、仲間を尊重した職員の方々との関わりを通し「自立支援」について学びました。3日目には仲間の足浴をさせていただく機会を戴き、学生が仲間といきいきと笑顔で楽しく過ごしている姿が印象的でした。

みらいろでは医療機関との連携を積み重ねられており、実習では健康教育に参加いたしました。仲間自身の「体を知る」という目的だけでなく、「仲間の医療の継続」という側面も学ばせていただきました。

実習後、学生たちは「障害を持つ方への思いの変化」について語っています。「実習前は障害を持つ方を消極的に傍観していたが、実習が進むにつれ街で出会った際に「何かあったのかな？」と共感的に思う自分自身の変化に気づいた」と言っています。この気づきから最終の学びの発表では「これからの看護の勉学に繋げ、もっと障害をもつ方々が住みやすい地域にしたい」と述べていました。

この学生の学びが具現化できるよう教育を行ってまいります。お忙しい中、温かくこまやかにご指導くださった職員の方々、そして温かく向かい入れてくださった仲間の皆様に関心より感謝いたします。

名古屋女子大学健康科学部看護学科 准教授 松田 優子

今回の実習はA日程・B日程に分かれ、4事業所で受入れを行いました。最初の出会いから先生方の篤い思いをお聴きし、ワクワクしたことを思い出します。各事業所からも「学生さんがしっかりしていた」「実習後、ボランティアに来ている学生さんもいる」などの嬉しい声が届けられています。

理事 向 幸子

# 日本へようこそ! CARE WORK IN JAPAN プログラム 5 期生

2020年より始まった、ベトナム・フエ科学大学との提携事業による介護人材育成プログラム。“CARE WORK IN JAPAN”では、既に1～3期生が「希望の家」と「まーぶる」で働いています。そしてこの4月から、更に5期生2名を迎えることになりました。

配属は「グループホーム宝南の家」と「ゆたか生活支援事業所みなみ（グループホーム エール）」です。来日した4月4日（木）は、両事業所所長が中部国際空港へお迎えに行きました。所長の感想と来日したおふたりの紹介をします。  
法人本部 向久美子



## グループホーム宝南の家

### 初めての受け入れ ～一つひとつ改善しながら～

「名古屋弁」が日々飛び交う「グループホーム宝南の家」で初めての受け入れです。

「きれいな日本語とは？」と頭を悩ませています。言葉の壁を感じず、働きやすい環境づくりのための準備は間に合わず…。オアンさんが初出勤の日に、利用者さまの部屋の表札にフリガナを付けたり、職員の名前をカタカナで書いた紙を渡したり、一つひとつ改善している段階です。

利用者さまとの会話では、翻訳機に頼らず、積極的にコミュニケーションをされています。時には、たくさんの利用者さまが同時に話をするので、混乱している様子もありますが、どんなときも笑顔で過ごされています。

日本での生活を有意義なものにできるようサポートしていけたらと思います。  
所長 松尾 陽子

## ゆたか生活支援事業所みなみ

### 一緒に成長を

#### ～援助担当職員や先輩職員とともに～

ベトナムからの留学生を迎えるにあたっては、援助担当者を決め、生活面も含めてサポートをお願いしました。ベトナムからの受け入れ経験があったので、それを活かしながら準備を進めました。

今回、配属になったホアさんは、大学で日本語を学んできた方で、コミュニケーションは簡単なものであれば、日本語での会話が問題なくできます。

これから専門用語や知らない言葉が出てくると思いますが、援助担当職員や先輩職員のリンさんにも協力してもらい、一緒に成長してもらえたらと思います。


所長 杉本 雅明

向かって  
左がオアンさん、  
右がホアさん▶



## 自己紹介

（名前 / 配属 / 特技 / 好きなもの / 好きな食べ物 / 日本に来ての感想・してみたいこと）

- ユオン フォン オアン
- グループホーム宝南の家
- バトミントン  
小学校時代からずっと、クラブチームでプレイしていました
- ブンボー（フエ発祥のヌードル）  

- とても静か  
皆が優しくフレンドリー  
カラスが多い

### 職員からのコメント

オアンさんはフエの医療短大で介護について学んでみえました。「これから日本でもたくさん学びたい！」と、福祉の仕事に意欲満々です。

- ファン ヴォー タイ ホア
- ゆたか生活支援事業所みなみ  
（グループホーム エール）
- ぬいぐるみ
- ブンボー・天ぶら
- 人が優しくフレンドリー  
なので安心しました
- いろいろな所を旅行したい  
多くの体験をしたい



### 職員からのコメント

ホアさんは、フエ外国語大学日本語学科の卒業生です。初めから日本語でコミュニケーションができるので、職員も（が？）一安心です。

## 「ゆたか障害者福祉研究所」 例会のご案内

- 報告「英国における社会福祉事情」
- 日時：2024年6月1日(土) 13時～17時
- 会場：日本福祉大学名古屋キャンパス南館 401
- 報告者：日本学術振興会科学研究費による調査チーム  
柏倉秀克氏 高橋桐子氏 上島 遥氏 加茂純子氏

### 問い合わせ先

ゆたか福祉会法人本部 担当 棚瀬  
TEL: 052-698-7356

## 助成金 御礼

このたび、「日本財団」様から2023年度福祉車両助成金の交付を受け、送迎車(小型車)の整備を行いました。日本財団の皆様をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

ふれあい共同作業所の送迎サービスの充実や、利用者の皆さんの要望に応えた取り組みに活用させていただきます。

**事業名** 2023年度福祉車両助成  
**事業内容** 送迎車(小型車)の整備  
**助成金額** 2,590,000円  
**実施場所** 生活介護事業所ふれあい共同作業所  
**完了年月日** 2024年4月8日



3月

- 5日(火) 保護者連合会定例会
- 6日(水) 作業改善ゼミ
- 8日(金) 職員ハンドブック  
改定委員会
- 11日(月) 事業運営推進会議
- 13日(水) 法人安全衛生委員会
- 14日(木) 正規採用職員初任研修  
(～15日)
- 15日(金) 就労支援事業推進委員会
- 18日(月) 第7回  
消費税訴訟口頭弁論
- 20日(水) 理事会
- 21日(木) 所長会議
- 22日(金) 正規採用職員初任研修
- 24日(日) 評議員会
- 25日(月) 援助担当者会議 /  
研修部会議
- 27日(水) 副所長会議

## 表紙の作者紹介「外国」



ゆたか生活支援事業所みどり  
森井 照子さん

絵を描くのが得意で、これまでもいくつもの作品を描いてきた森井さん。「エッ!あの時の作品が採用されたの?」と喜んでいらっしゃいました。

今回の作品は、毎週木曜日にコツコツと描き上げました。森井さんの描く絵はいつもカラフルで、ポジティブな心の内が表現されています。色々な場所へ行ったり経験豊富な森井さんですが、これからも、もっと色々な場所へ行き、美味しいものを食べたり、散歩してみたいとの事です。

絵を描き始めると黙々と取り組み、明るい色を使うと気持ちも明るくなる様です。春から新緑の季節を迎えます。ホームの中も森井さんの絵と同様、明るくなっていくと思います。

## 広報・496号

2024年5月号(2024年5月10日発行)

定価1部200円

法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協会会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協会会費 = 年間1口6,000円、  
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884  
・中京銀行 鳴海中央支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

# その人らしく働く 暮らす

Vol.117

## 仲間

### 「理想の生活の実現を目標に 日々を暮らす」

ゆたか生活支援事業所かさでら **野木森美佐さん**



野木森さんは学校卒業後、一般就労を経て1992年4月に「ゆたか作業所」での実習を行い、同年10月から正式利用になり、リサイクル現場で働いてきました。2005年4月のリサイクルみなみ作業所移転後、正式所属となり働き続けています。中心となるベルトコンベア上の異物除去作業では、黙々と手を動か

し、周りからの評価も高い方です。暮らしの場では、それまでの母親との2人暮らしから、弥次エホームが現在の粕島に建設された時に「粕島ホーム」に入居されています。野木森さんは来年の6月で65才になります。1年ほど前には、作業所で65歳を間近に控えた希望者で、デイサービスの見学会を実施しました。野木森さんも参加したお一人です。昨年夏には休憩の頻度が増

えたこと、ホームでも「疲れた」という声が増えてきたことから、三者で面談し時短勤務の日を設けることになりました。ライフスタイルの見直しを必要とされている野木森さん。ご本人はこれからの生活について、ホームの仲間がデイサービスを利用してことや、デイサービスの見学会に行ったことから「デイサービスの利用もいいな」とおっしゃっています。ホーム職員として、これからも関連機関と連携をとり、本人の希望に沿った日々の生活を大切に支えていきたいです。

鈴木美沙



なばなの里でお花見

## 職員

### 「初めての福祉の仕事に 携わってみて」

地域生活支援拠点事業所まーぶる **富樫結衣**



ゆたか福祉会に入職して、あつという間に一年が経ちました。昨年度は「ゆたか生活支援事業所みなみ」(以下、事業所みなみ)で働き、様々なことを学ばせていただきました。福祉の仕事は初めてで、最初は不安でしたが、先輩職員のサポートのもとで、安心して仲間の支援をすることができました。

私に大学では、アニマルセラピーを中心に、動物のことを学んでいました。将来はアニマルセラピーに関する仕事がしたいと思っています。専門的に働いている方に相談したところ、「まずは福祉現場で働いて、福祉に関する経験・知識を身につけましょう」と提案をいただきました。ゆたか福祉会を紹介していただき、採用が決まり、配属は事業所みなみになりました。そして「元塩ホーム」の担当として、新しい仕事にスタートしました。「グループホームエール」や「ホームみどり」

での仲間の支援もさせていただき、それぞれ個性豊かで楽しく思っていました。みんな同じではないので、同じ支援では上手くいかず、その日のコンディションによっても対応が変わってきました。「どう支援したらいいか」と考えさせられる毎日でした。職員・なかまと関わり、コロナも緩和され「外出の取り組みなども計画していきたいね」と話していましたが、4月からまーぶるに異動となりました。



新たな職場でも頑張ります

すでに1か月が経とうとしていますが、まだまだドタバタする日が続きそうです。事業所みなみで学んだことを生かし、新しい場所での支援も頑張っていきたいと思っています。